

## 事業概要

- 事業場所** 米子市皆生新田
- 事業内容** 排水機場 1 式(排水能力 5 m<sup>3</sup>/s×2 基)  
【暫定整備 1 基】
- 事業期間** 平成 28 年度～令和 8 年度(予定)
- 事業費** 約 30 億円
- 事業効果**

県では、水貫川氾濫被害の軽減のため、既存の排水量 2 m<sup>3</sup>/s の国の排水機場に加え、計画規模 1/30 洪水による床上浸水の解消を目標とした排水量 10 m<sup>3</sup>/s の排水機場の整備を定めた河川整備計画を平成 28 年に策定しました。

当面は、過去最大の浸水被害であった昭和 62 年 10 月洪水の床上浸水の解消を目標とした排水量 5 m<sup>3</sup>/s の排水ポンプの暫定整備をすることとしています。

※ 計画規模 1/30 洪水とは、おおよそ 30 年に 1 回程度の確率で発生する出水をさします。

## 水貫川の経緯

水貫川は、日野川の最大取水用水路の分岐水路として、周辺地域の排水及び灌漑用水路として寄与していましたが、皆生温泉地区の発展に伴い都市計画による市街化が計画されたことを踏まえ、水貫川の流下能力不足を解消するため、昭和 49 年から小規模河川改修を計画して、計画高水流量 7.0 m<sup>3</sup>/s とする河川改修を実施しました。

本事業においては、昭和 59 年には合流部に逆流防止樋門(水貫川樋門)を設置しましたが、樋門閉鎖時の排水処理施設が未整備であったため、昭和 62 年 10 月洪水において樋門閉鎖に伴う浸水被害が発生しました。このことを受けて、国が平成 8 年度に救急内水対策事業により排水量 2 m<sup>3</sup>/s の排水ポンプを設置しました。

しかし、平成 23 年、25 年、30 年の洪水でポンプ排水能力を上回る出水が発生、なかでも平成 30 年は、国及び県の排水ポンプ車も出動して出水対応、家屋への浸水被害はなかったものの道路冠水被害があり、近年、浸水被害の危険性が高まっているところであります。

## 位置図



## 水貫川河川改修事業における浸水被害軽減対策

# 水貫川排水機場



お問い合わせ

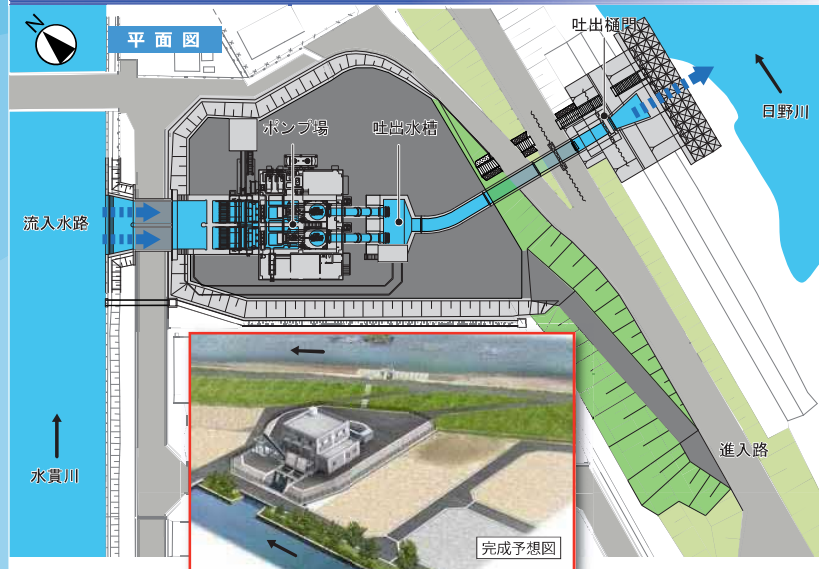
鳥取県 西部総合事務所 米子県土整備局  
計画調査課・河川砂防課

〒683-0054 (0859)31-9722  
米子市耗町 1 丁目 160 31-9746

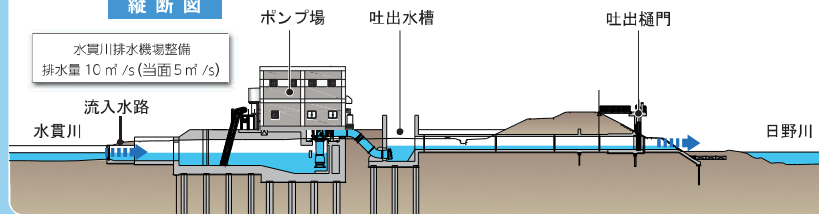
鳥取県  
Tottori Prefecture



## 排水機場概要図



### 縦断面図



## 排水機場の仕組み



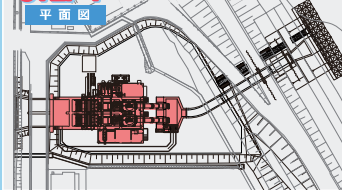
通常時  
水貫川の水は、流末の水貫川樋門から日野川へ流れています。

洪水時  
日野川の水位が水貫川より高くなると水貫川樋門を閉じるため、既設の皆生救急内水排水機場のポンプより日野川へ排水します。しかしながら、雨の量が多いと排水できず、周辺が浸水してしまいます。

洪水時  
水貫川排水機場が完成した場合には、既設ポンプに加え、新設排水機場によるポンプ排水により、周辺の浸水被害の軽減が期待できるようになります。なお、平成30年9月豪雨で発生した浸水被害は解消されることとなります。

## 施工手順図

### STEP 1 排水機場土木工事



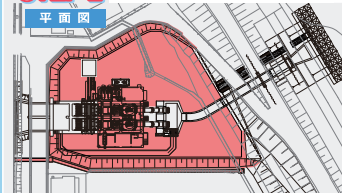
#### 縦断面図

最初に排水機場の基礎工事及び土木工事を行います。

施工期間: 約3年

【R2~R4】

### STEP 2 盛土工事・建築工事



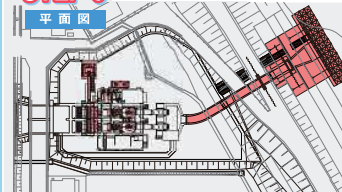
#### 縦断面図

次に基礎造成の盛土及び上屋建築工事を行います。

施工期間: 約1年

【R5】

### STEP 3 排出樋門工事・ポンプ場設備工事



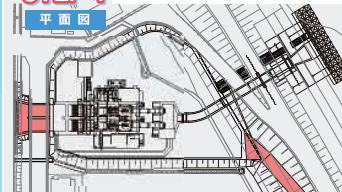
#### 縦断面図

次にポンプ設備工事及び、台風期を避けた11月~6月に日野川の吐出樋門の工事を行います。

施工期間: 約2年

【R6~R7】

### STEP 4 流入水路工事・外構工事



#### 縦断面図

最後に水貫川の流入水路工事及び場内整備を行います。

施工期間: 約1年

【R8(完成予定)】

※各ステップの施工期間が重複することもあります。

## 過去の被害写真や水防活動状況

